

南アルプスのホテイラン

湯浅保雄

ホテイラン（ラン科）はヨーロッパ・シベリア・日本・アリユーション・アラスカ・北アメリカに広く分布している。日本国内では本州中部に、静岡県では富士山や南アルプスにみられる。

ホテイランの形態は写真1のように、地上部は1枚の葉と6-15cmの1本の花茎の先に1個の大きな花をつけ、地下部は2-3節からなる球茎があり、球茎からは分岐しない細い根が1, 2本出ているというものである。生育場所は温帯上部から亜寒帯の針葉樹林下である。写真1の個体は、大井川上流部の二軒小屋付近の標高1500m前後のウラジロモミ林のものである。ここには10年ほど前までかなりの数のホテイランが見られたが、今では殆ど消えてしまった。減少の原因は、ほとんどは鹿による食害である。地面に張り付くようにして展開し、大きくても長さ5cm、幅3cm程度の1枚の葉を鹿が食べるのだろうかという疑問もあるが、ホテイランの葉は、夏に出て小形のまま越冬し、春に花茎の伸長と共に広がって、花後に枯れるという性質を持っている（写真2）。ちょうど葉の大きくなる時期が他に餌になるものがない時と重なっているのである。



写真1. 二軒小屋付近のホテイラン
2022年5月3日、三宅 隆撮影

そこで県は鹿の食害対策としてホテイランの上に金網をかぶせることとした（写真3）。この方法は簡単で食害を防ぐには効果があった。ところが金網の上にたまった落葉が光を遮断し、ホテイランの生育を阻害するという欠点も明らかになった。今後また、よりよい方法を考える必要がある。



写真2. 10月下旬のホテイラン

南アルプスのホテイランには、リニア新幹線のための工事箇所から避難させねばならないという問題もでてきた。ようは他所への移植である。移植には移植先の環境条件を考慮せねばならない。ランの多くは養分摂取に菌根菌の助けをかりている。ホテイランも1, 2本の細い根しかないのも菌根菌の助けを借りているからと考えられる。菌類は土壌条件によって種類も繁殖具合も異なるので、生育地の土壌と移植先の土壌



写真3. 食害対策の金網



写真4. ホテイラン生育地の土壌

の条件を合わせる必要がある。そこで南アルプスのホテイラン生育地の土壌はどんなものが、深さ80cm程掘ってその断面を観察してみた。写真4に見られるように、土は砂に粘土分をわずかに含む砂質壤土で、深さが80cm以上あり、水はけが良く植物の生育に最適なものであった。